

## 2019 (令和元) 年度 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：神岡鉱山における歪・傾斜・地震観測 英文：Strain, tilt, seismic measurement in Kamioka-mine
研究代表者	荒木英一郎
参加研究者	木村俊則、町田祐弥
研究成果概要	<p>海洋研究開発機構では神岡鉱山とその周辺での地震動・地殻変動様式を実観測によって明らかにすること、および南海トラフ巨大地震発生域の海底掘削孔内・海底環境に設置する地震・地殻変動観測装置が陸上および海底の環境で正しく動作することの確認を目的として、平成 22 年度より南海トラフ海底に設置した観測システムと同様の体積歪計、傾斜計、温度計、地震計を神岡鉱山の試験孔内および近傍に設置し長期評価試験を行っている。令和元年度は、これら既設の体積歪計、傾斜計、地震計等による連続観測を継続し、観測データ間の潮汐応答、季節変動の関係性等について議論を続けている。また、微小な地殻変動を検出するために新規開発を行った光干渉方式の地殻変動観測装置（歪計・傾斜計）を神岡鉱山の試験孔内および近傍に設置し、既設観測装置の観測データとの比較による測器の応答特性等、測器の健全性確認を含む特性評価を実施した。評価を行った地殻変動観測装置は令和 2 年度以降、南海トラフの海底に設置する予定である。令和 2 年度以降も既存の歪・傾斜・間隙水圧などの連続観測および新規開発した観測機器の評価試験を継続して実施する予定である。</p>
整理番号	B 18